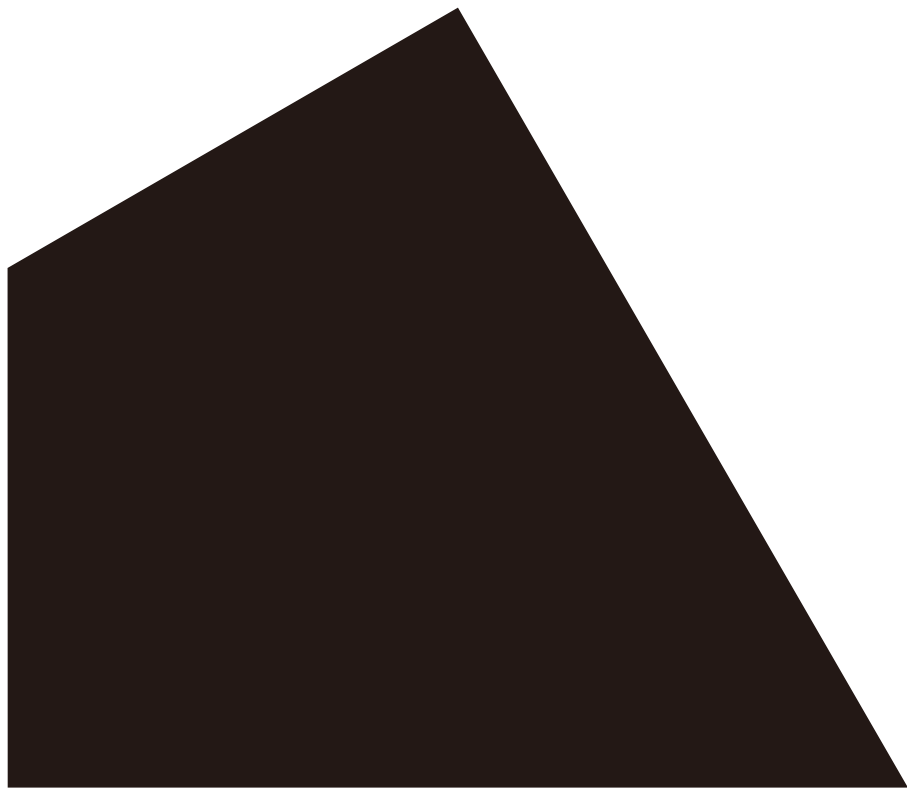


文
化

Culture



一座きょうと オープニングイベント 茶道・華道

本日はようこそお越しくださいませ、ありがとうございます。

京都ゾーンのオープニングを飾るのは京の伝統文化、茶道と華道のおもてなしです。

ゾーンのテーマである、客と亭主が心通わせる「一座建立」の精神をぜひ体感してください。

ICHI-ZA KYOTO Opening Event – Tea Ceremony & Flower Arrangement

Thank you very much for coming today. The opening of the Kyoto zone welcomes visitors with displays of traditional Kyoto culture, tea ceremonies, and ikebana flower arrangements. We invite you to experience firsthand the spirit of ichi-za konryu, or “fostering deep communication and understanding between guests and the host.”

1 表千家 不審菴

Omotesenke Fushin'an

2 表千家 同門会 京都支部

Omotesenke Domonkai kyoto Region

3 華道家元 池坊

Ikenobo Ikebana

おもてせんけ

表千家

ふしんあん

不審菴

歴史

安土桃山時代、天下人の織田信長、豊臣秀吉の茶堂(さどう)として名実ともに「天下一の茶人」となった千利休を初祖とし、その茶の湯を今日に継承する流派の一つである。江戸時代前期、利休の孫元伯宗旦(げんぱくそうたん)の三人の息子たちによって三千家が成立。三男の江岑宗左(こうしんそうさ)が千家の家督を相続して、地所と主屋ならびに茶室「不審菴」を譲り受け、表千家不審菴の基礎を固めた。

また、四男の仙叟宗室が裏千家今日庵、二男の一翁宗守が武者小路千家官休庵の礎を築いた。表千家の家元は四代江岑宗左以後、「宗左」の名を継承し、現在、15代猶有斎(ゆうゆうさい)千宗左に至っている。なお、江岑宗左より紀州徳川家に茶堂として仕官し、幕末の11代碌々斎(ろくろくさい)に至るまで、およそ200年にわたって同家と茶の湯の深い結びつきをもった。



表門

おもてせんけ

表千家

ふしんあん

不審菴

不審菴の由来

不審菴は、もと利休が大徳寺門前の屋敷にいとなんだ四畳半の茶室の名である。利休がたいへん懇意にしていた大徳寺の古溪宗陳(こけいそうちん)に茶室の名を付けてくれるよう頼んだところ、古溪は「不審花開今日春(ふしんはなひらくこんにちのはる)」の禅語から付けたと伝えられる。不審は「いぶかしい」という意味で、人智を超えた自然の偉大さ、不思議さに感動する心ともいうことができる。不審菴の茶室は歴代の家元によって大切に守り伝えられ、表千家を代表する小間(こま)(現在の大きさは三畳台目(さんじょうだいめ))の茶室である。



不審菴

表千家の茶の湯 ころろと美

利休は、珠光(しゅこう)と武野紹鷗(たけのじょうおう)の茶を受け継いでわび茶を大成したが、それは日本人の日常生活に深く根ざしたものであり、一服のお茶を通じて人と人との心の交わりを大切にするものであった。また、利休が好んだ道具は黒を基調とし、簡素で使いやすさを重視したもので、いわゆる「用」の美をかねそなえている。表千家不審菴は、こうした利休の茶の湯のころろと美の伝統を今日に伝えている。



千利休画像(長谷川等伯筆)

華道家元池坊

命を見つめ、命を生かす。-池坊いけばなの精神-

「いけばな」は、池坊から始まりました。

いけばなは、587年創建の京都・紫雲山頂法寺(六角堂)で、僧侶が仏前に花を献じていたことから始まったと言われており、約1400年の歴史があります。

池坊には「枯れた花にも華がある」という理念があります。いけばなは、美しく咲いた花を単に賞翫するだけでなく、蕾は未来を暗示するもの、枯れた草木は生きてきたプロセスを経たものとして捉えます。草木が四季折々に見せる姿に美を見いだすこと、それが、池坊の花をいける心であり、大切な理念です。



華道家元池坊 公式WEBサイト

池坊いけばな 3つのスタイル



立花



生花



自由花

華道家元池坊

いけばな発祥の地『六角堂』

池坊の本拠地は、587年に聖徳太子が建立したと伝えられる京都の紫雲山頂法寺にあります。本堂の形が六角形であることから、古くより「六角堂」の通称で知られ、親しまれています。

初代の住職は、遣隋使の小野妹子と言われており、代々池坊の家元は六角堂の住職も務めています。

京都の中心といわれる「へそ石」や平安時代から願をかけると良縁に恵まれると言われていた「縁結びの六角柳」、我々の暮らしや子供を守る「十六羅漢」や「お地蔵さん」があり、見どころも満載です。是非、京都・六角堂へお越しください。



紫雲山頂法寺(六角堂)

住所: 〒604-8134 京都府京都市中京区六角通東洞院西入堂之前町248

拝観時間: 6:00~17:00

拝観料: 無料

華道家元池坊

「華道」無形文化財登録

日本国における文化財保護の制度として、2021年6月に無形文化財としての登録制度が新設されました。

生活文化に係る歴史上の意義、文化的に高い価値があるとして、2024年12月に「華道」が国の無形文化財として登録されました。

華道・いけばなの持つ精神性、そして伝統的な技術や道具類など付随する文化の次世代への継承、更なるいけばな文化の普及発展に寄与するべく、我々は活動を続けて参ります。



華道の無形文化財への登録について
「文化庁広報誌 ぶんかる」

華道家元池坊

いけばなの根源池坊展「TRANSITION」

多重の「うつろい」、「変遷」が折り重なる「時空間に展開するいけばな展」



ギャラリーEASTにて、いけばなの根源池坊展を開催しています。

次期家元 池坊専好の大作をはじめ、世界へ華道文化を紹介することを目的とした「いけばなの変遷」を辿る作品と、万博テーマでもある「いのち」を表現するデジタルといけばなとのコラボ大作インスタレーション。今までにない洗練された新しい“いけばな展”をご覧ください。

是非、ご来場ください。



いけばなの根源池坊展「Transition」

会場 ギャラリーEAST

会期 4月13日～20日

前期:4月13日～16日 後期:4月17日～20日

10:00～20:00(※16日は18:00、20日は17:00で閉場)

入場予約:不要

京瓦「キモノタイル」に覆われた 空間デザインと映像・音楽によるノンバーバル表現

オリジナルの京瓦「キモノタイル」によって
質感を統一したミニマルかつ静謐な空間を通じて、
来場者がじっくりと京都の未来と過去に
向き合えるような体験を創出します。
さらに、そこに加わるノンバーバルな映像と音響は、
空間と一体となりながらその多面的な魅力を物語ります。



映像紹介

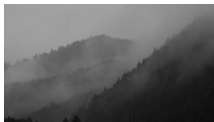


今日庵の窓

撮影地：裏千家 今日庵（京都市上京区）
協力者：裏千家 今日庵



大輪の菊



雨が降る深山

撮影地：南丹市美山町



春の和菓子

撮影地：京都市下京区
協力者：京菓子司 末富



岩盤から滲み出る清水

撮影地：京都府船井郡京丹波町



商業施設の中の活花作品と 街の雑踏

撮影地：大丸京都店（京都市下京区）
協力者：華道家元池坊



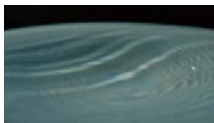
お茶をいただく人

撮影地：無鄰菴（京都市左京区）
協力者：植彌加藤造園株式会社



鋭利なハサミが枝を切る

映像紹介



水盤の波紋



うねる海面

撮影地：京都府舞鶴市



山間を流れる溪流

撮影地：京都府宮津市



ダイナミックな松の枝

撮影地：京都御苑（京都市上京区）



柄杓で釜からお湯をすくう

撮影地：無鄰菴（京都市左京区）

協力者：植彌加藤造園株式会社



江戸時代の立花図集

撮影地：いけばな資料館（京都市中京区）

協力者：華道家元池坊



立花の作品

撮影地：いけばな資料館（京都市中京区）

協力者：華道家元池坊



点前座から見た今日庵茶室

撮影地：裏千家 今日庵（京都市上京区）

協力者：裏千家 今日庵

映像紹介



赤く燃える炭

協力者：一般社団法人茶道裏千家淡交会
木下 宗佳



樂茶碗のディテール

撮影地：樂美術館（京都市上京区）
協力者：公益財団法人樂美術館



今日庵の壁に落ちる陽光

撮影地：裏千家 今日庵（京都市上京区）
協力者：裏千家 今日庵



今日庵 兜門からの露地

撮影地：裏千家 今日庵（京都市上京区）
協力者：裏千家 今日庵



樂茶碗

「十五代直入焼貫黒樂茶碗女媧
（1993年制作）」（公益財団法人樂美術館蔵）

撮影地：樂美術館（京都市上京区）
協力者：公益財団法人樂美術館



ススキ野原

撮影地：京都府宮津市



樂茶碗の見込（内側）

撮影地：樂美術館（京都市上京区）
協力者：公益財団法人樂美術館



降り積もる雪

撮影地：京都市中京区

じゅんおんはいけい

巡音拝景

京都府の今の音と、文献などに記述された音をあつめ、
そこに新たな音を配置(Composition=作曲)して制作する。

1996年に環境省(当時環境庁)は「全国各地で人々が地域のシンボルとして大切にし、将来に残していきたいと願っている音の聞こえる環境(音風景)を広く公募し、音環境を保全する上で特に意義があると認められるもの」として「残したい“日本の音風景100選”」を選定した。それから約30年が経ち、改めて京都府の音を取り上げる。温暖化が加速し、四季が失われつつある現代において山や森林など木々は大変重要で貴重なものである。京都府には豊かな自然があり、美しい音が存在している。自然がこれからも失われないことを祈りながらフィールドレコーディングをした。前述の「音風景100選」で取り上げられたものに加え、新録している。

さらに文学の中にも多くの音の記述がある。録音技術が生まれる以前には古来から人々はことばを使って音を集めた。こういった音を集めることもフィールドレコーディングである。

フィールドレコーディングリスト

Part-1 るり溪(南丹市) 船着場(伊根町) 舞鶴港(舞鶴市) 宮津湾(宮津市) 石清水八幡宮(八幡市)

Part-2 京都御所玉砂利(京都市) 清水寺(京都市) 鹿(京都市) 大江山(福知山市) ちりめん街道 天満神社(与謝野町)

Part-3 琴引浜(京丹後市) 琴滝(京丹波町) 宇治川(宇治市) 真福寺水琴窟(亀岡市) 妙心寺(退蔵院) 水琴窟(京都市)

Part-4 綾部大橋由良川(綾部市) 美濃山竹林(八幡市) 興聖寺(宇治市) 古世親水公園(亀岡市) 詩仙堂鹿おどし(京都市)

御香宮神社(京都市) 雷雨(京都市)

記述されたものからのフィールドレコーディングリスト

大原『平家物語』鐘の音、鹿の音、虫の音

野宮『源氏物語』虫の音、松風の音、雅楽の楽器の音

宇治『万葉集』宇治川にして作る歌二首 1699-1700 雁の鳴き声、川の音

法成寺『栄花物語』巻第十七「おむがく」雅楽の演奏音

丹後『丹後国風土記』逸文 嘆く声、歌

福知山『大江山絵詞』雷、田楽

石清水八幡宮 世阿弥 能『弓八幡』、『放生川』 不思議な音楽、夜神楽の音

法勝寺『弁内侍日記』後戸猿楽、鈴の音

谷崎潤一郎 潺湲亭「夢の浮橋」添水(しおどし)の音

琴弾浜 木内石亭『雲根志』海辺の砂浜の音

『蜻蛉日記』車の音

『洛陽田楽記』永長の大田楽

作・編曲:原 摩利彦

ギター:Polar M

フィールドレコーディング協力:村中真澄

リサーチ協力:原 瑠璃彦

音響デザイン:中原楽(KARABINER inc.)

株式会社 大城音響事務所

制作:MH Studio Inc. / TSUYURI

空間デザイン協力	Space design cooperation
Sandwich	Sandwich
京瓦タイル「キモノタイル」製作協力	Kyoto tile "Kimono tile" production cooperation
株式会社京瓦 浅田製瓦工場	ASADA KAWARA FACTORY
テーマ映像制作	Theme video production
株式会社 青空	AOZORA,LTD
テーマ音楽制作	Theme music production
原 摩利彦	Marihiko Hara

大阪・関西万博きょうと推進委員会